

# 令和2年度 農作物病虫害発生予察情報 発生予報 第6号（10月予報）

令和2年9月29日 秋田県病虫害防除所

<b>【内容】</b> Ⅰ. 予報の要点 Ⅱ. 主要病虫害の向こう1か月の予報 Ⅲ. 発生予報と防除対策 Ⅳ. 気象予報 Ⅴ. 気象データ Ⅵ. 用語の説明	<b>【問合せ先】</b> 秋田県病虫害防除所 018-881-3660 秋田県農業試験場 018-881-3326 秋田県果樹試験場 0182-25-4224 かづの果樹センター 0186-25-3231 天王分場班 018-878-2251
<b>【お知らせ】</b> ◇今回の予報対象期間は10月を主とします。次回の発表予定は令和3年3月23日です。 ◇病虫害発生予察情報は秋田県病虫害防除所のホームページで閲覧できます。 <a href="https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/">https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/</a> ◇短期暴露評価により使用方法が変更された農薬の情報については、秋田県のホームページで確認してください。 <a href="https://www.pref.akita.lg.jp/suiden/">https://www.pref.akita.lg.jp/suiden/</a> ◇農薬の登録内容は随時更新されますので、防除薬剤については指導機関に相談してください。最新の農薬登録状況の検索や、登録・失効農薬情報は独立行政法人農林水産消費安全技術センターのホームページで閲覧できます。 <a href="http://www.famic.go.jp/">http://www.famic.go.jp/</a> ◇病虫害発生予察情報の発表をお知らせするメールマガジンはこちらのホームページで読者登録できます。 <a href="http://www.e-komachi.jp/">http://www.e-komachi.jp/</a>	

## I. 予報の要点

小麦	雪腐病の感染量は県中央部で平年並、県南部でやや多いと予想されます。ほ場の排水対策を徹底し、連作で春季に発生が多かったほ場では根雪直前に薬剤散布をしてください。
野菜	ねぎ（秋冬どり）では、黒斑病・葉枯病の発生量が多いと予想されます。9月29日発行の農作物病虫害防除対策情報第9号を参照して、10月前半まで重点的に防除してください。 キャベツ（秋冬どり）ではコナガの発生量が多いと予想されます。収穫前日数に注意して薬剤を選定し、散布してください。

## Ⅱ. 主要病害虫の向こう1か月の予報

作目名	病害虫名	対象地域	発生時期	発生量	
				現況	予報
小麦	雪腐病	県中央部	—	—	平年並
		県南部			やや多い
ねぎ (秋冬どり)	さび病	全県	—	やや少ない	平年並
	べと病	全県	—	平年並	平年並
	黒斑病・葉枯病	全県	—	多い	多い
	アザミウマ類 (ネギアザミウマ)	全県	—	やや少ない	平年並
キャベツ	コナガ	全県	—	多い	多い
	モンシロチョウ	全県	—	やや少ない	平年並
	ヨトウガ(第2世代)	全県	—	やや少ない	やや少ない

## Ⅲ. 発生予報と防除対策

### A 小麦

病害虫名	予報内容	
	感染時期	感染量
1. 雪腐病	—	県中央部：平年並（前年並） 県南部：やや多い（前年よりやや少ない）

#### (1) 予報の根拠

ア、東北地方寒候期予報によると12月～2月の降雪量はほぼ平年並と予報されている（ /±）。

イ、3～4月の巡回調査における葉腐れ・枯死面積率は県中央部0%（平年1.6%）で平年並（ /±）、県南部40.7%（平年26.2%）で高かった（ /+）。

#### (2) 防除上注意すべき事項

ア、早播、窒素肥料の多用、リン酸肥料の不足時に発生が多くなるため、適期適量の播種に努め、肥培管理に注意する。

イ、水田転作での栽培は排水対策を徹底する。

ウ、県内では雪腐小粒菌核病の発生が主体である。連作で春季に発生が多かったほ場では、根雪（平年の根雪の初日は秋田市12月6半旬、横手市12月2半旬）直前にシルバキュアフロアブル、バシタック水和剤75、フロンサイドSC、モンカット水和剤のいずれかを1回散布する。

エ、無人航空機で防除を行う場合は、根雪直前にシルバキュアフロアブルを散布する。

オ、薬剤散布後、根雪までの期間が長かったり、多量の降雨があった場合は再散布を行う（ただし、シルバキュアフロアブルの根雪前の使用回数は1回である）。

カ、根雪期間が100日を超えると被害が著しくなるため、特に根雪期間が長い県南部では根雪直前の防除に努める。

## B ねぎ（秋冬どり）

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
1. さび病	—	平年並（前年よりやや多い）

### （1）予報の根拠

- ア、向こう1か月の気温は高い、降水量はほぼ平年並と予報されている（ /+）。
- イ、9月4半旬の巡回調査における発病株率は0.0%（平年5.0%）でやや低かった（ /-）。

### （2）防除上注意すべき事項

- ア、気温が15～20℃で降雨が続くと発病しやすく、被害の拡大が早くなるため予防や発病初期の防除に努める。
- イ、発病が多くなってからでは防除効果が劣るため、発病初期から、アミスター20フロアブル、オンリーワンフロアブル等を散布する。ただし、アミスター20フロアブルは近接散布するとねぎを湾曲させる薬害を生じる場合があるので、散布間隔を2週間以上とる。収穫前日数に注意して、薬剤を選定する。
- ウ、QoI剤（ストロビルリン系剤）、ステロール生合成阻害剤（EBI剤）は、耐性菌出現回避のため連用を避ける。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
2. べと病	—	平年並（前年並）

### （1）予報の根拠

- ア、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている（ /±）。
- イ、9月4半旬の巡回調査における発病株率は0%（平年0.2%）で平年並だった（ /±）。

### （2）防除上注意すべき事項

- ア、気温が15℃前後で降雨が続くと発病しやすく、被害の拡大が早い。
- イ、発病初期から、治療効果のあるアミスター20フロアブル、テーク水和剤、ベトファイター顆粒水和剤等を散布する。ただし、アミスター20フロアブルは近接散布するとねぎを湾曲させる薬害を生じる場合があるので、散布間隔を2週間以上とる。収穫前日数に注意して、薬剤を選定する。
- ウ、QoI剤（ストロビルリン系剤）、カルボン酸アミド剤（CAA剤）は、耐性菌出現回避のため連用を避ける。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
3. 黒斑病・葉枯病	—	多い（前年より多い）

### （1）予報の根拠

- ア、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている（ /+）。
- イ、9月4半旬の巡回調査における発病株率は21.3%（平年9.0%）で高かった（ /+）。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、9月29日発行の農作物病虫害防除対策情報第9号を参照して防除する。

病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
4. アザミウマ類 (ネギアザミウマ)	—	平年並 (前年より少ない)

(1) 予報の根拠

ア、向こう1か月の気温は高い、降水量はほぼ平年並と予報されている ( /+ )。

イ、9月4半旬の巡回調査における被害株率は48.3% (平年56.9%) でやや低かった ( /- )。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、収穫物の被害の低減を図るために、7~10日間隔でアドマイヤー顆粒水和剤、アルバリン顆粒水溶剤/スタークル顆粒水溶剤、グレーシア乳剤、スピノエース顆粒水和剤、ダントツ水溶剤、ディアナSC、ファインセーブフロアブル等を散布する。収穫前日数に注意して、薬剤を選定する。

イ、薬剤感受性の低下を回避するため、同一薬剤、同一系統薬剤の連用を避け、系統または作用機作の異なる薬剤をローテーションして使用する。

## C キャベツ (秋冬どり)

病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
1. コナガ	—	多い (前年より多い)

(1) 予報の根拠

ア、向こう1か月の気温は高い、降水量はほぼ平年並と予報されている ( /+ )。

イ、9月4半旬の巡回調査における株当たり幼虫数は0.1頭 (平年0.0頭) で多かった ( /+ )。

ウ、秋田市予察ほにおける9月4半旬の株当たりの産卵数は0.5個 (平年0.7個) で平年並だった ( /± )。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、幼虫が見られる場合は、ネライストキシン系剤、アフーム乳剤、グレーシア乳剤、コテツフロアブル、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSC、トルネードエースDF、フェニックス顆粒水和剤、ファインセーブフロアブル、プレバソンフロアブル5等を散布する。収穫前日数に注意して、薬剤を選定する。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
2. モンシロチョウ	—	平年並（前年並）

(1) 予報の根拠

ア、向こう1か月の気温は高い、降水量はほぼ平年並と予報されている（ /+）。

イ、9月4半旬の巡回調査における株当たり幼虫数は0頭（平年0.0頭）でやや少なかった（ /-）。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、コナガとの同時防除に努める。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
3. ヨトウガ（第2世代）	—	やや少ない（前年よりやや少ない）

(1) 予報の根拠

ア、向こう1か月の気温は高い、降水量はほぼ平年並と予報されている（ /+）。

イ、9月4半旬の巡回調査における株当たり幼虫数は0頭（平年0.1頭）でやや少なかった（ /-）。

ウ、秋田市予察ほにおける9月1～4半旬のフェロモントラップの総誘殺数は0頭（平年5.4頭）でやや少なかった（ /-）。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫のうちに防除する。

イ、幼虫が見られる場合は、アフーム乳剤、グレーシア乳剤、コテツフロアブル、ディアナSC、プレバソンフロアブル5等を散布する。収穫前日数に注意して、薬剤を選定する。

4. その他病害虫の発生予報と防除対策

病害虫名	発生時期	発生量		防除上注意すべき事項
		現況	予想	
ハスモンヨトウ	—	多い	多い	発生状況に注意し、コナガ等との同時防除に努める。ただし、農薬の適用情報に注意する。

## IV. 気象予報

### 令和2年9月24日仙台管区気象台発表 東北地方1か月予報（9月26日～10月25日）

#### （1）予想される向こう1か月の天候

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

#### （2）向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10%	30%	60%
降水量	40%	30%	30%
日照時間	30%	30%	40%

#### （3）気温経過の各階級の確率

	低い	平年並	高い
9/26～10/2	10%	30%	60%
10/3～10/9	20%	30%	50%
10/10～10/23	20%	30%	50%

### 令和2年9月25日仙台管区気象台発表 東北地方寒候期予報

#### （1）予想される冬（12月～2月）の天候

冬（12月から2月）の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

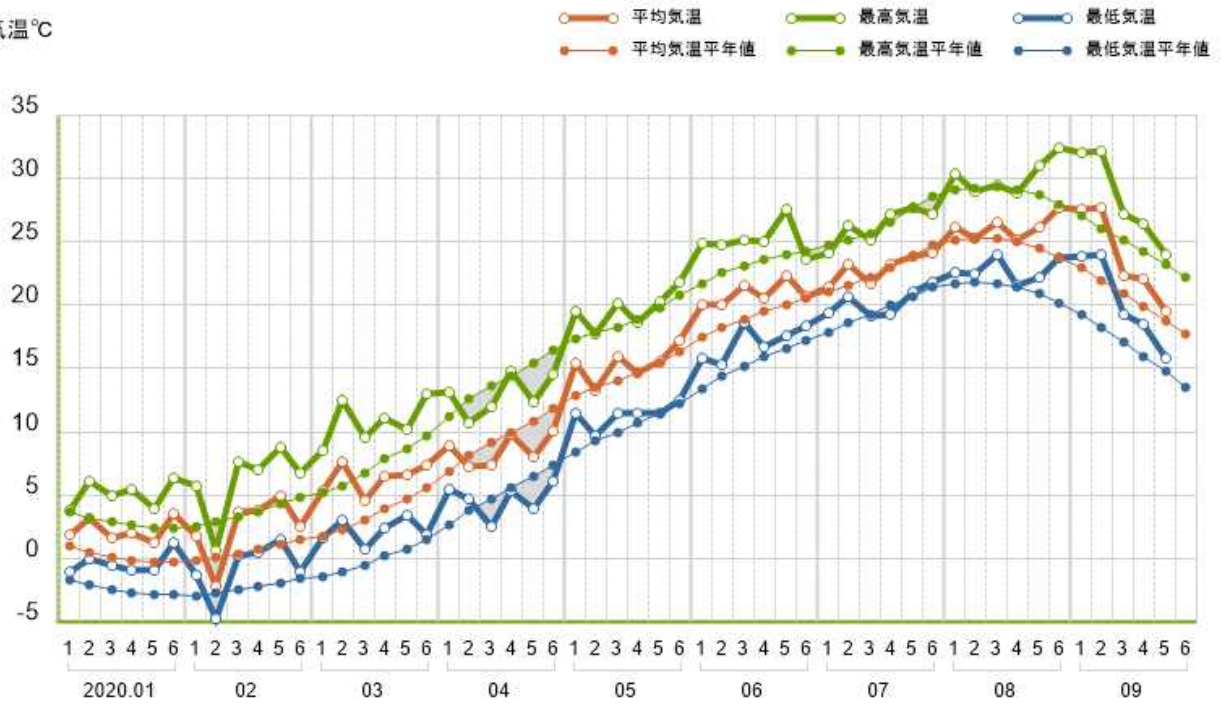
東北日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

#### （2）冬（12～2月）の気温、降水量、降雪量の各階級の確率

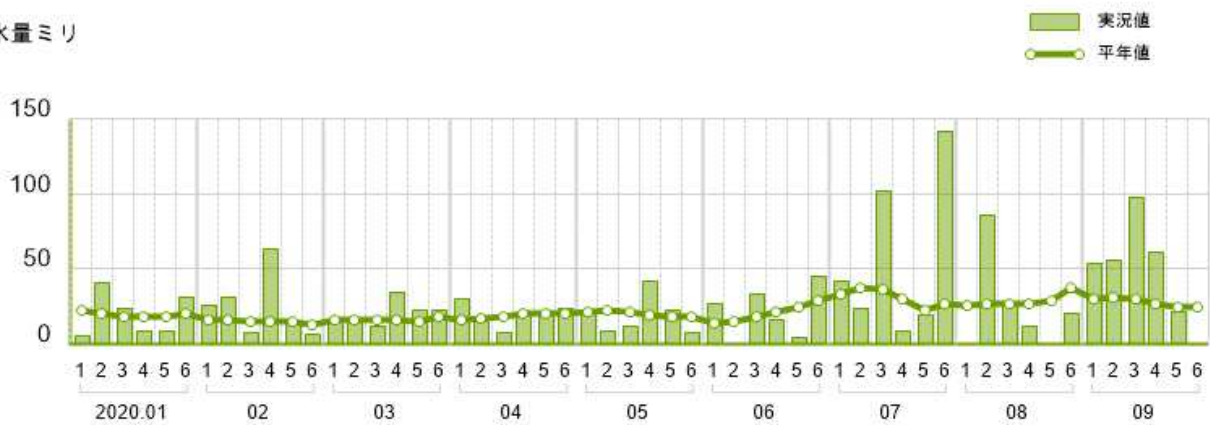
	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	30%	40%	30%
降水量	30%	40%	30%
降雪量	30%	40%	30%

## V. 気象データ (秋田市、1月1半旬～9月5半旬 秋田県農業気象システムより)

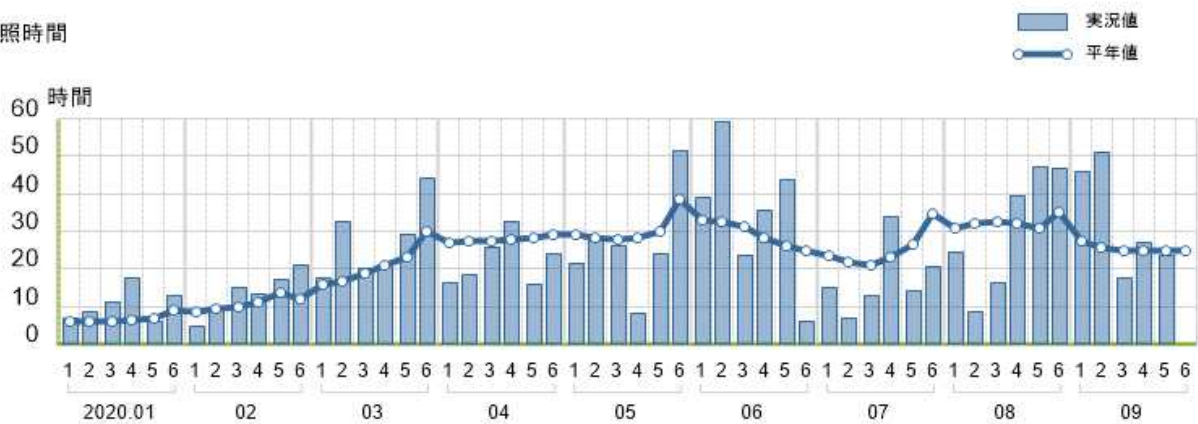
気温℃



降水量ミリ



日照時間



## VI. 用語の説明

### 発生時期

平年の発生日日からの差を5段階評価で予測します。

日数	~-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	+1	+2	+3	+4	+5	+6~
評価	早い	やや早い		平年並				やや遅い		遅い			

### 発生量

発生密度の平年値からの差を5段階評価で予測します。密度のばらつきの差で示されるので、毎年発生密度が大きく変化する病害虫では、平年値からよほど大きくずれないと「多い」や「少ない」の評価にはなりません。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多い」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少ない」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

平年値 ↓						
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少ない	やや少ない	平年並		やや多い	多い

### 予報の根拠

予報の根拠に示している（ / ）は予察の要因で、（発生時期/発生量）を表しています。

発生時期が「遅い」場合は「+」、「早い」場合は「-」となります。発生量が「多い」場合は「+」、「少ない」場合は「-」となります。

発生時期、発生量ともに、「平年並」の場合は「±」、関係しないときは「空欄」となります。

### 気象の確率予報

出現が見込まれる確率予報は、高い（多い）確率が50%以上の場合は「高い（多い）」、低い（少ない）確率が50%以上の場合は「低い（少ない）」となります。低い（少ない）確率が20%で平年並と高い（多い）確率がそれぞれ40%の場合は「平年並か高い（多い）」、高い（多い）と平年並が40%で低い（少ない）が20%の場合は「平年並か低い（少ない）」となります。また、それぞれの確率が30~40%の場合は「ほぼ平年並」となります。

出現確率(低い(少ない):平年並:高い(多い))	解説
高い(多い)確率が50%以上 (20:40:40)	高い(多い) 平年並か高い(多い)
平年並の確率が50%以上 (40:30:30) (30:40:30) (30:30:40)	平年並 ほぼ平年並
(40:40:20)	平年並か低い(少ない)
低い(少ない)確率が50%以上	低い(少ない)

### 半旬のとり方

ここで扱われる「半旬」とは暦日半旬のことで、毎月1日から5日ごとに区切った期間となります。1半旬は1日から5日まで、2半旬は6日から10日までであり、以降6半旬まで5日ごとに該当する期間を指します。



## 農薬の適正使用・管理の徹底を！

農薬使用にあたっては、十分注意のうえ、安全かつ適正に使用してください。

### ○安全使用の基本事項

- ・農薬の使用基準を遵守する。
- ・病虫害の発生状況を把握し、必要最小限の農薬を使用する。
- ・防除履歴を必ず記録する。

### ○農薬使用上の注意

- ・農薬の散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）させない。
- ・家畜・蜜蜂等に影響のある農薬を使用する場合は、地域内の畜産農家及び養蜂業者と緊密に連携し、散布日時や散布地域、使用農薬の種類等を散布前に十分周知する。
- ・農薬散布後は散布器具の洗浄を徹底する。
- ・特に、土壌くん蒸剤は使用上の注意事項を遵守する。
- ・農薬散布時の装備と体調は万全にする。

### ○農薬の取扱い上の注意

- ・農薬は保管庫に入れ、施錠して保管する。
- ・農薬を他の容器（清涼飲料水の容器等）へ移し替えない。